

# 地域ケアジャーナル

特 集

## 地域統ぐるみによる認知症ケア

特集編集 児玉桂子  
日本社会事業大学 大学院 特任教授



あの人  
インタビュー

公益社団法人日本認知症グループホーム協会  
理事長 河崎茂子

厚生労働省  
ホットライン

第99回社会保障審議会  
介護給付費分科会資料(抜粋)(平成26年3月27日)

5

2014 Vol.16 No.5

# トラベルヘルパー（外出支援専門員）とは —介護技術と旅の業務知識を備えた専門家—

特定非営利活動法人 日本トラベルヘルパー協会 理事長 篠塚恭一

行けるところに行くのではなく、行きたいところへ車いすで行く方法を考え、行動する

トラベルヘルパー（＝外出支援専門員。以下、トラベルヘルパー）は、高齢で身体の不自由な人の外出や旅行をサポートする専門家です。

国内、海外の旅行から、ふるさとへのお墓参りなど、様々な外出ニーズに応えています。高齢な人や障がいのある人は、自由な移動が困難なため、ちょっとした外出もためらい、閉じこもりがちな生活をしています。そうした人が安心して外出できるように専門的な介護技術や旅の業務知識を学び、外出支援のノウハウを身につけたプロフェッショナルとして活躍しています。

トラベルヘルパーの役割は、不自由な人

の手足の代わりとなることが基本です。さらに移動中は人、モノ、お金もあわせてケアします。旅先で車いすの介助をするほか、食事やトイレ、旅館での入浴介助など、日常生活の延長にあるケアに加えて、買い物の手伝いや美容室への同行、お墓参りやカーチャー教室に同席することもあります。

一方、外出や旅行の相談から計画を一緒に立てること、予約手配といったバリアフリー旅行全般の業務も行います。利用する本人の代理人として、身体状況に合わせた無理のない工程をアドバイスし、コミュニケーションを重ねながら同行して体調管理の他、旅行中の受け入れ先との調整などの業務にも対応しています。

介護施設のホームヘルパーとは異なり、トラベルヘルパーはバリアにあふれた社会の中でケアサービスを行う仕事です。



本人に寄り添い、安心、安全な旅をエスコートする

図1 トラベルヘルパーの概念図



## 旅はリハビリ 環境変化でQOL向上

トラベルヘルパーになりたいという人の多くは、現在も介護職にいる人か、これまでに家族の介護を経験した人、特に熱心な女性です。また、最近ではリタイア後の男性や独立開業した人など、福祉サービスに対する前向きで、自ら地域の課題を解決していくという気概の溢れる人が多く見受けられます。

介護職の志望理由は、公的介護保険で貢われるサービスに制限があることや、また、各

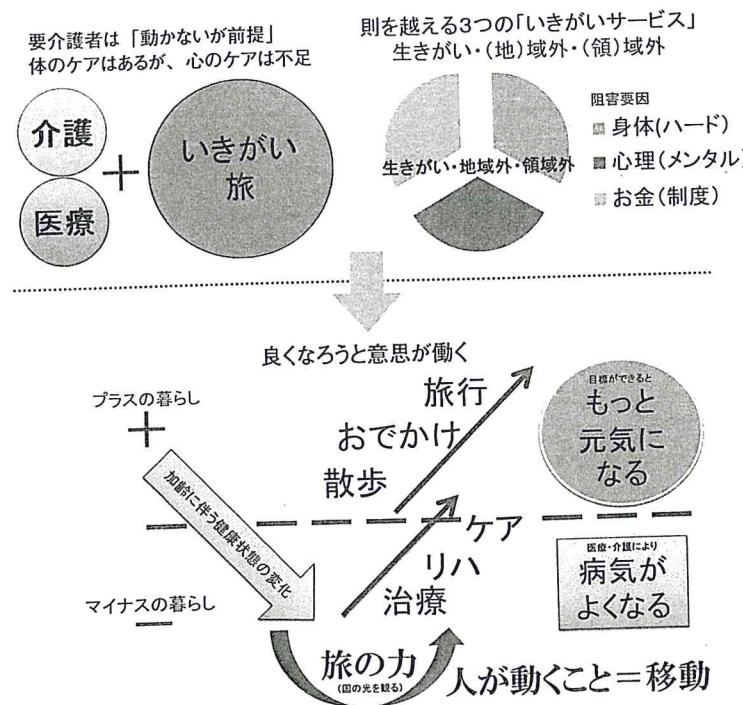


図2 高齢期を支え続ける生きがい

事業者が独自のルールをつくり、本人が「本当はしたいこと」に対して「本当はしてあげたいこと」が叶わないという現場の矛盾やもの足りなさを感じている人がほとんどです。

しかしながら、それを制度の壁と言えばそれまでですから、自ら福祉を志した初心に帰り、もう一度働く喜びを呼び覚まそうと考えた末に説明会へ来ていることがわかります。

トラベルヘルパーの仕事は、一度に大勢の方をケアすることはできません。基本的に一人のマンツーマンサービスです。したがって、効率的に多くの人をまとめてサービスするのではなく、その一日を一人の方に寄り添つて深くかかるというパーソナルケアですから、人同士の信頼関係が深まっていくことに魅力を感じるといいます。介護職としてのキャリアアップだけでなく、旅をすることでも広く社会と接し、職業人として人間の幅を広げることができるのが魅力です。

一方で「旅は最高のリハビリ」と言われますが、それは出かける事の前に、まず旅に出ると決めるところに意味があります。普段介護を受け、テレビを話し相手にベットの上の暮らし人にとって、カレンダーに予定が入ることは画期的で、日々の暮らしに大きな変化が起きます。リハビリに前向きに取り組むようになります。会話が増え、家族関係がよくなつていくのがわかります。さらに旅へ出て自信

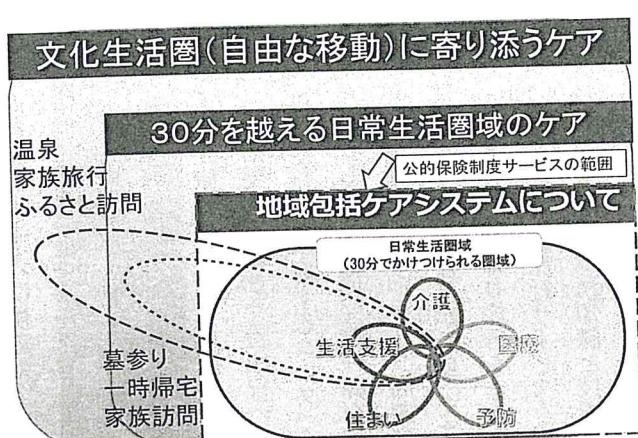


図3 移動の自由が健康で文化的な生活を支える

をつけたことで7割の人が再び旅へ出でていますから、そうした小さな積み重ねがいわゆる日常生活の中での行動変容となつて、介護度が軽減される人もいます。

制度改正によりはじまつた地域包括ケアシステムは、日常生活（概ね30分でかけつけられる）圏域における介護、医療、予防、住まい、生活支援が公的サービスとして提供される計画です。しかし、高齢者の生活は、お墓参りや一時帰宅など、この生活圏域を越えた場所への移動にも強いニーズがありますが、制度としての対応はされません。そこで、外出支援サービスとして高齢な人の意思に沿つた外出環境を築くことで、本人のQOL向上、

介護予防、介護家族の心のケアなど、私たちができる地域力の向上にトラベルヘルパー一人ひとりが取り組んでいます。

当協会では「あなたのまちのトラベルヘルパー」と称してメンバーサポートを行っており、こうした資格者が孤軍奮闘している地域に入り、社会資源との連携や同じ地域での人材育成などサポート活動を行っています。

## 公的制度と民間サービスの総和が地域力を上げる

### (1) 資格の歴史

まだ介護という言葉が一般化されていないかった1990年代初頭に高齢化する旅行者に対するサービスとして介護付き旅行の必要性を感じたことから、観光分野で働く人を対象に専門教育をはじめました。高齢となつて健康に不安を覚えたり、身体が不自由でそれまで旅や外出をあきらめたりしていた人に行きたい所へ行けるようにサービスする。そうした移動をアシストする為に、屋根のないところの介護教育を施してくれるところがなかつたので、トラベルヘルパー養成講座として、すでに介護資格や技術を有する人に向けたこのプログラムをつくりました。

現在、全国で600名の介護人材がこの専門研修を受講し、居住する地域や所属する組織

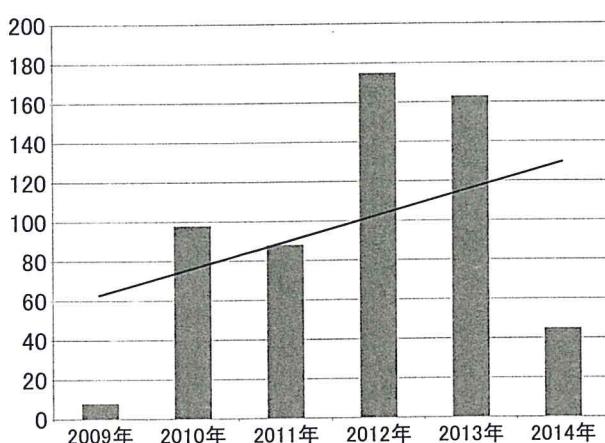


図4 受験者推移

2012年以降、団塊世代が65歳以上に突入し、いわゆる高齢化が本格化したこと、マスコミ等で紹介される機会が増えたことで、申込者が急増している。

### (2) 学習内容

現在この講座は、プロとしてサービスを提供することを目指す、トラベルヘルパー2級、準2級の二つの資格と家族の外出や地域でボランティア活動をしたいという人向けの3級資格の三つのカテゴリーがあります。2級、準2級の二つの資格と家族の外出や地域でボラ

ンティア活動をしたいという人向けの3級資格の三つのカテゴリーがあります。2級、準2級にはそれぞれ2日間から5日間にわたって行なわれる実地研修(演習)への参加が必要です。受講に要する時間は、概ね準2級で60時間、2級で120時間がテキスト学習から事前課題の作成、フィールド調査、さらに実地研修まで含めた目安になります。

受講期間は、最長1年です。2級課程では、協会オリジナルの3級、準2級、2級テキス

ト級資格取得をめざす人は検定までに介護福祉士や看護師、あるいは介護初任者資格(旧ホムヘルパー2級レベル)など、何らかの介護技能を示す資格が必要となります。2級は、プロとして介護旅行サービスを提供することを目的に、外出支援および介護旅行に必要な知識と技術を総合的に学習するコースで、トラベルヘルパーとして飛行機や新幹線を利用するなど、長距離移動や宿泊を伴う周遊型の介護旅行の仕事をしたい方などが対象になります。

また、準2級は、日帰り旅行をなさる要介護の方に外出支援・介護旅行サービスを提供することを目的に、必要な業務知識と技能を学習します。

3級では、身近な人の外出の際に安全で快適な外出支援ができるよう、公共交通の利用方法や手続きなど基本的なおでかけ知識を学習する内容です。ご家族を外出に連れて行きたい方、トラベルヘルパーについて知りたいという方が対象です。

さらに準2級、2級にはそれぞれ2日間から5日間にわたって行なわれる実地研修(演習)への参加が必要です。受講に要する時間は、概ね準2級で60時間、2級で120時間がテキスト学習から事前課題の作成、フィールド調査、さらに実地研修まで含めた目安になります。

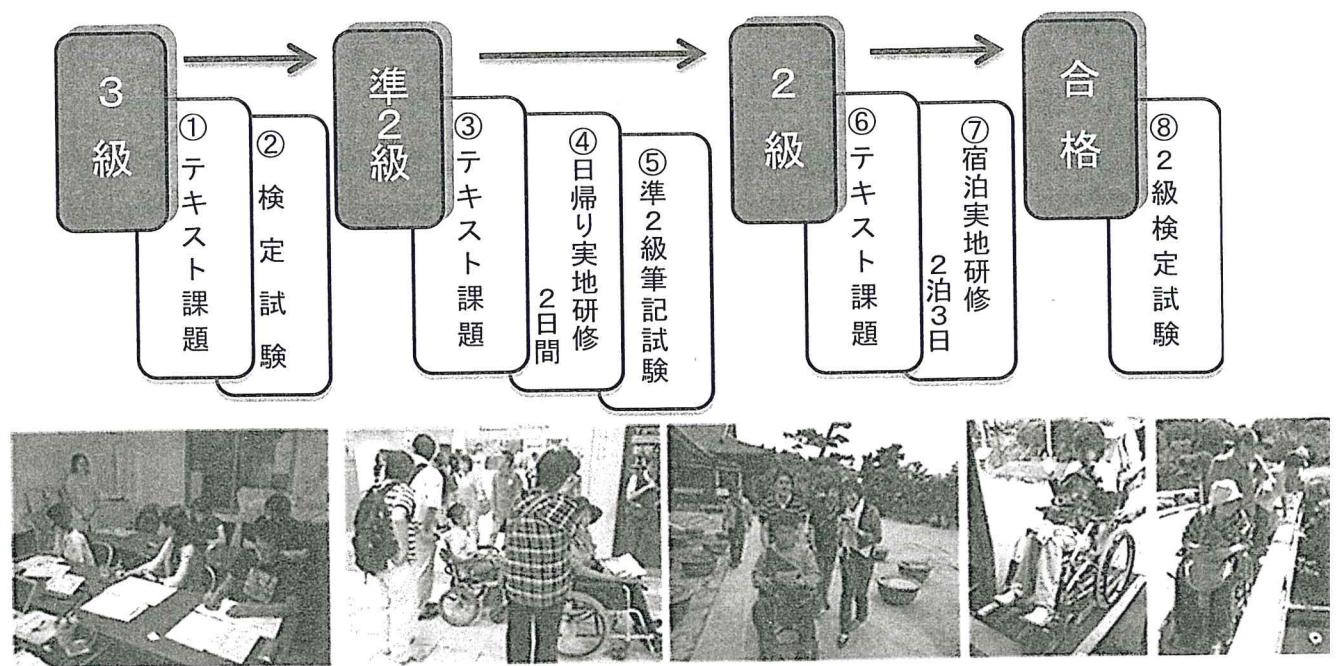
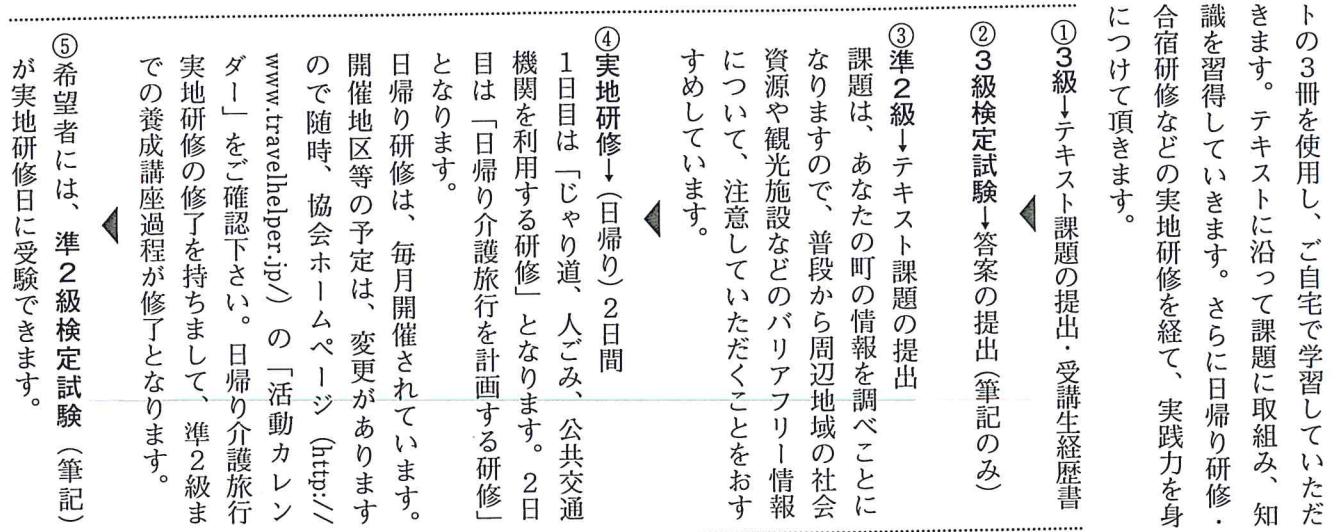


図5 資格取得までのフロー（2級の場合）



	日帰り介護旅行 実地研修	宿泊介護旅行 実地研修
研修	A じゅり道人ごみ公共交通機関を利用する研修	B 日帰り介護旅行を計画し実施する研修
参加資格	課題提出が終了していること	Aの研修を修了していること
研修内容（演習）	・車いすの基本操作 ・移動中の介助 ・公共交通機関の利用	・日帰り介護旅行計画 ・日帰り介護旅行体験
開催日時	※随時開催	
催行人数	3名	3名
備考	2日間の内容により、再受講頂くこともあります	補講をお受け頂くこともあります

図6 研修の流れ

⑥2級→テキスト課題提出「介護旅行実践課題4題」と「体験課題3題」です。

⑦実地研修→(宿泊合宿)2泊3日間

※申し込み締め切りは1ヶ月前

⑧トランヘルパー2級検定試験  
(受験料・8,640円)

しかしながら、養成講座はあくまで資格取得までの過程であり、利用する顧客への信頼を得るために基礎課程と言えます。

そこで、昨年から東京本部事務局の他、全国11ヶ所のトランヘルパーセンターが地域活動をはじめており、毎月どこかで勉強会を開催し経験者の事例発表などを通じて情報共有を行っています。また有資格者は、3年ごとの(登録更新制度)となつており、その間の活動レポートを協会に提出頂くことになります。そこで、プロとしての責任と仕事を同じくする人同士の誇りを確認し、互いに刺激しあい切磋琢磨の機会としています。そうして協会は、トランヘルパーの働く安心をつくるために身分保障を行い、介護旅行が安全に安定的に行われるよう地方在住の人へはICTを活用した情報共有や広域連携を図るための環境整備、サービスの質と職業人としての信頼向上に取り組んでいます。

トランヘルパーの2級資格者がサービス

提供の実践を積み重ねると、介護旅行のコディネーションを行うスキルが身に着くので、ナルに進化させ、地域に暮らす高齢者の予防次のような実務能力が高まります。

グラムの旅行計画版を自治体とともにオリジナリに進化させ、地域に暮らす高齢者の予防事業にも取り組んでいます。

①加齢や疾病から要介護状態となり、居宅や施設で介護保険サービスを提供される高齢者に対しても、家族や介護従事者らの協力により外出ニーズの相談を受け聞き取りを行う能力。

②障がいや介護度、外出目的と希望の内容に応じた旅行計画、目的地のパリアフリース��況を調査し把握した上で外出時のケアアセスメントを行う能力。

③身体能力やIADL情報から、介護タクシーやによる自宅送迎、バリアフリーの宿、外出時の介護技術を持つトランヘルパー等の介助など必要に応じたサービスを選定し、シームレスにコーディネートを行う能力。

こうした過程を経て、日常生活圏域を離れるなど訪問やお墓参り等の旅もトランヘルパーが実現しています。

また、東日本大震災では、発災直後から被災地に入り、避難所から短期避難者の移動支援、全社協等によるボランティアセンターの立ち上げ支援、さらに全国から集まる支援職員の移送サービス等をトランヘルパーとして行いました。

他にも8年前から東京都健康長寿医療センター研究所の開発した地域型認知症予防プロ

## プロ同士を結ぶツナギのプロ

当協会は介護技術を備えた外出支援、介護旅行の専門家であるトランヘルパーを養成するために、内閣府(現東京都)から2006年認証を受けた特定非営利活動法人です。当協会の活動に賛同して下さる方は、個人、法人に限らず、どなたでも入会できます。

外出相談からコーディネート、さらに同行サービスを提供する人材を地域で専門教育し、介護旅行を供給することで身体機能が向上し、要介護度が下がる高齢者が現れており、家族や日常のケアを担当するヘルパーの負担を軽減させています。さらに継続的な利用によって、社会性・経済性を保つことから、本人が自尊心を回復し周囲の人間関係を回復させています。こうした事実から、自治体の財政負担や雇用問題を改善させる期待も交ざり、制度外の生活支援サービスを担う人材として、東伊豆町、最上町、うるま市等で自治体と連携したトランヘルパーの育成が積極的に行われるようになっています。

専門家の研究では、社会的つながりのない人は、つながりのある人より要介護となるり

## 生活支援

## ・地域に暮らす高齢者のQOL ↑

雇用創出

## ・ハイブリッド事業による就労 ↑

観光立国

## ・交流機会を増やし観光収入 ↑

地方分権を自分たちで支えることができる

図7 地域の健康力を向上させる住民満足度(RS)経営

職種が連携する新たなサービス構築の試みです。そこで利用された外出支援サービスは、通院通所のような消極的な意思による外出ではなく、自らの意思で行きたいところへ行くという主体的な外出であり、身体が不自由な人の社会的孤立や高齢者の孤独、さらに災害時に役立つ地域資源と

スクが高いことがわかつていますが、そうした環境の改善は自助では容易にできません。また、行政が身体の不自由な人のいる地域において生活まわりまでバリアフリー環境を整えることなどの公助にも限界があります。そこで、トラベルヘルパーが担う役割は、  
 ①要介護高齢者やその家族とのコミュニケーション  
 ②外出支援コーディネーター（計画とアセスメント）  
 ③外出時のケアサービス提供者

の3点ですが、これは地域や領域にこだわることなく広域に多くの雇用創出、就労支援としても効果が見込まれる上、他の地域と交流機会を増やすことでも可能となります。今後は、超高齢社会において住民満足度を向上させる地域経営（RS経営）の手法の一つとして、地域社会のQOLを向上させること、新しい時代のサービスインフラとなり災害時や2020年にやつてくるパラリンピックでのおもてなし、ホスピタリティ人材としても活躍が期待されています。

## おわりに

人は年をとると、多かれ少なかれ死を意識するようになります。

周囲にそういう話が増えることも理由にあります。が、誰より自分の体力の衰えを感じたり、健康に不安を覚えるようになるからです。すると本当にしたいことが鮮明になってきます。

人には、命よりも大切なものがある。

しかし、高齢な人が介護旅行をするには、勇気、障がいを持つ人がするには元気が必要です。

高齢で介護が必要になつて、人生に挫折感

して近年、認知されるようになつてきました。

また、地域に暮らす高齢者のQOLを向上させるだけでなく、休眠ヘルパーの活用による雇用創出、就労支援としても効果が見込まれる上、他の地域と交流機会を増やすことで、観光収入を上げることも可能となります。今後は、超高齢社会において住民満足度を向上させる地域経営（RS経営）の手法の一つとして、地域社会のQOLを向上させること、新しい時代のサービスインフラとなり災害時や2020年にやつてくるパラリンピックでのおもてなし、ホスピタリティ人材としても活躍が期待されています。

他の力を借りても今を生きぬく素晴らしさをます。トラベルヘルパーは自由な移動を提供することができるし人生には楽しいこと、素敵なことがまだまだたくさんあると気付かせてくれます。これからも伝えていきたいと思います。

## 〔関連書籍〕

- 介護旅行に出かけませんか（講談社）
- みんなのユニバーサルデザイン（学研）
- 55歳からのハローライフ（幻冬舎）
- トラベルヘルパー（外出支援専門員）養成講座
- 新しい介護（講談社）
- オヤノタメ商品ヒットの法則（集英社）
- はじめての介護（学研）
- 幸せに向かうデザイン（日経BP社）

## 〔参考メディア〕

- NHKアーカイブス ワザあり「介護」旅・食・アートの力  
<http://www.nhk.or.jp/heart-net/tv/calendar/2013-10/01.html>
- カンブリア宮殿  
 年を取っても旅したい！不可能を可能にする、高齢化時代の旅行のプロ  
<http://www.tv-tokyo.co.jp/cambria/backnumber/20111124.html>